

平成18年1月20日

国立駅舎の保存活用の取り組み

曳家予算は否決となりました。

国立市は、国立駅舎を現地において現存のまま保存するため、駅舎を工事期間中曳家により一時駅前円形公園へ移設し、高架工事終了後に関係機関と協議の上、おおむね現位置に再移設し国立市指定文化財として保存活用する取り組みを計画しました。

この取り組みに必要な国立駅舎の曳家設計委託料等の補正予算案を平成17年の9月、12月国立市議会に提案しましたが、高架工事終了後に戻す用地の確保やその財源計画が不明瞭である他の理由で否決となりました。

現在、曳き家での駅舎保存は難しくなり、JR東日本からはスケジュールの関係で、工事の支障となるため撤去せざるを得なくなるといわれています。



多くの保存要望が寄せられました。

議会開催中や終了後に、保存を望む多くの方々からのメールや、下記団体からの要望書が寄せられました。

- 一橋大学如水会国立・国分寺支部一同
- 国立音楽大学附属高校同窓会・同校普通科同窓会
- 国立音楽大学附属中学校・高等学校PTA役員・有志一同
- ソロイストツ同人一同
- 混声合唱団「漣」
- 駅舎を残してこのまちに暮らそう会（462名署名付）
- 日本建築家協会（JIA）関東甲信越支部保存問題委員会

保存に向けて、今後の取り組み

駅舎の保存のあり方については、モニュメントとしてレプリカで残せばよいとか新しい駅舎のデザインにイメージが残ればよいと言うご意見もありますが、国立市の玄関口のシンボルとして、国立のイメージアップや付加価値を高めている駅舎の役割を将来に継承していくには、近代歴史建築物として本物を現地に残していくことが、最も望ましい保存のあり方と考えています。

そのための現実的手法としての曳家による保存の取り組みでしたが、市議会の同意を得ることができなかつたため非常に困難となってしまいました。

このため、曳き家以外の方法を視野に入れて再び関係機関との保存協議を行なっています。

駅舎の保存のために残された時間は、わずかとなってしまいました。今後、まちづくり協議会を設置し、国立駅周辺まちづくりの取り組みを行っていく予定です。引き続き市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。



(ご意見、お問合せ先) 国立市建設部まちづくり推進課

[TEL] 042-576-2111[内線]382

[FAX] 042-576-0264

[E-mail] sec_machizukuri@city.kunitachi.tokyo.jp